

市長への提言 令和5年6月末日現在

件名	要旨	市の考え方	受付日	回答日	担当部署
市立ひらかた子ども発達支援センターへのタクシー送迎について	市立ひらかた子ども発達支援センターに通う児童に、弟妹が産まれた場合、弟妹と一緒にタクシーに乗ることができないと言われた。特別なケースの場合に限りタクシー利用ができるようにならないでしょうか。	<p>市立ひらかた子ども発達支援センターにおいて、肢体不自由児等が通所する「なのはな」は、児童への療育とともに、保護者も障害や発達への理解を深めてもらうことで、児童の健やかな成長に見通しを持っていただけるように取り組んでおり、「介護タクシー」、「タクシー」、「自主」のいずれかの方法から、親子で通所していただいております。</p> <p>現在、タクシーへの乗車は、安全面を考慮したうえで、通所児童と保護者1名までとしております。</p> <p>また、本市独自の取り組みとして、介護タクシー及びタクシーの使用料を全て市で負担しています。利用者が希望する送迎タクシーの台数は、タクシー会社の協力のもと確保を図っており、他の通所親子との相乗りが可能な場合は相乗りをしていただくことで、必要最小限の台数で運用を行っているところであります。</p> <p>障害児や発達上支援が必要な子どもたちに対して、専門的な保育・療育の提供を行うとともに、利用者のニーズを踏まえ、療育を受けやすい環境を整えることは重要であると認識しております。</p> <p>弟妹が産まれた場合のタクシーへの同乗につきましては、今後、送迎タクシーにおける簡易チャイルドシートの使用や、介護タクシーや福祉移送サービス事業者の活用が可能か検討を行ってまいります。</p> <p>今後も、障害児や発達上支援が必要な子どもたちに対して、専門的な保育・療育の提供を行うとともに、利用者のニーズを踏まえ、療育を受けやすい環境を整えるように努めてまいります。</p>	2023/5/16	2023/6/2	市立ひらかた子ども発達支援センター
「ともに学びともに育つ」、インクルーシブな社会となるために障害の社会モデルの考え方を広めていくことについて	枚方市の「ともに学びともに育つ」には、障害への理解が大変重要だと考えます。他市と東京大学大学院教育学研究科が、「教育・研究交流連携事業に関する協定」を令和4年に結び、インクルーシブ社会の実現の大きな促進が期待されていると知りました。枚方市も東京大学大学院教育学研究科と「教育・研究交流連携事業に関する協定」を結ぶのはいかがでしょうか？	<p>他市の取り組み事例をご紹介いただきありがとうございます。</p> <p>吹田市と東京大学大学院教育学研究科との「教育・研究交流連携事業に関する協定」は、障害の社会モデルについての授業実践のみならず、インクルーシブな社会の実現に向けて効果が期待できる取り組みであると考えております。</p> <p>今後、市内の学校だけでなく、枚方市全体をインクルーシブな社会にできるよう、ご提案いただいた他市の事例なども参考にしながら、取り組みを進めてまいります。</p>	2023/5/22	2023/6/5	児童生徒支援課
50歳以上の「帯状疱疹ワクチン」への助成について	枚方市にお願いがあります。それは、50以上の「帯状疱疹ワクチン」への助成です。ワクチンを接種したいと思いましたが、不活化ワクチンは1回2万円×2回で4万円の負担になり、簡単には接種できません。企業や他自治体では助成しているところも多々あります。ぜひ枚方市でも実現をお願いします。	<p>感染症対策上、重要度が高いと考えられる予防接種については、国において、予防接種法に基づき、行政の費用負担による定期の予防接種が行われています。</p> <p>帯状疱疹の発症を予防するワクチンにつきましては、現在は任意の予防接種という位置づけであり、接種費用の公費助成制度は実施しておりません。しかしながら、国の審議会において、定期の予防接種化の議論が行われるなど発症予防の重要性が高まってきていることや、全額自己負担による接種費用の負担が大きいことなども認識しております。今後も、国の動向を注視するなど、方向性を見極めてまいりたいと考えます。</p> <p>また、帯状疱疹の発症を予防するためには、ワクチン接種以外の方法として免疫力を低下させない生活を送ることが大切となります。そういった帯状疱疹を予防するための知識の普及や、早期治療の大切さについての、周知啓発にも取り組んでまいります。</p>	2023/5/25	2023/6/5	母子保健課